

令和6年度 学校自己評価システムシート (埼玉県立誠和福祉高等学校)

| | |
|--------|---|
| 目指す学校像 | 福祉やボランティア等の人との関わりを大切にする教育活動を通して、人間性を磨き、地域や社会を支える力と心をもった生徒を育成する。 |
|--------|---|

| | |
|------|---|
| 重点目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1 生徒の「考える力」を育て、確かな学力を身につけさせる。 2 思いやりの心と、自主・自律の態度を養う。 3 高い志を持ち、社会に貢献できる人材を育成する。 4 広報活動を充実させ、地域社会において福祉教育への理解を広める。 |
|------|---|

| | | |
|-----|---|--------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成 (8割以上) |
| | B | 概ね達成 (6割以上) |
| | C | 変化の兆し (4割以上) |
| | D | 不十分 (4割未満) |

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

| | | |
|-----|----------|-----|
| 出席者 | 学校関係者 | 7名 |
| | 生徒 | 4名 |
| | 事務局(教職員) | 10名 |

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| 学校自己評価 | | | | | | 学校関係者評価 | |
|--------|--|--------------------------------------|---|--|--|---------|---|
| 年度目標 | | | | 年度評価(1月31日現在) | | | |
| 部 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 |
| 1 | ○生徒の主体的な学び促進に向け、全年度実施となる観点別評価のノウハウ確立および1人1台端末利用年次の増加によりICT活用授業実施に関するノウハウの共有が必要である。 | ○生徒の学習意欲の向上及び基礎学力の定着 | <ol style="list-style-type: none"> ①研修会、授業見学、授業改善に向けたアンケートの実施 ②各系列とコースにおける資格取得・検定・実習・成果発表等の充実 | <ol style="list-style-type: none"> ①アンケートで「主体的に学習に取り組むことができた」と回答する生徒の割合が80%を超えたか、「授業が理解できる」と回答する生徒の割合が80%を超えたか、「ICT機器の活用により学習の理解の助けとなった」と回答する生徒の割合が70%を超えたか。 ②各系列とコースにおいて、資格取得および検定合格を含めた進路指導計画が実施できたか。 | <ol style="list-style-type: none"> ①観点別学習評価に基づく評価・評定の基準について教務を中心に協議し改善を図った。 ②資格取得や検定受検に主体的に取り組んだ生徒は82.6%、課題やレポートは提出期限を守り、取り組んでいると回答した生徒は95.5%であり、主体的に学習に取り組む生徒の割合は80%を超えた。 ③授業を理解できると回答した生徒は90.7%、学力向上を自分で実感できたと回答した生徒は81.3%であり、「授業が理解できる」と回答する生徒の割合は80%を超えた。 ④「ICT機器の活用により学習の理解の助けとなった」と回答する生徒の割合生徒は79.7%であり、目標の70%を大きく超えた。 | A | <p>生徒の主体的な学び促進を継続し、学力向上のため授業改善の取組により一層取り組みたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格取得や検定受検に主体的に取り組んだ生徒は前年度比3.0%増 ・課題やレポートは提出期限を守り、取り組んでいると回答した生徒は前年度比1.3%増 ・授業を理解できると回答した生徒は前年度比3.6%減 ・学力向上を自分で実感できたと回答した生徒は前年度比2.1%減 <p>生徒はICTを活用した授業実施を期待しており、授業実施に向け、ICTを積極的に活用する教員の授業ノウハウを教科の枠を超えて共有する必要がある。</p> |
| 2 | ○福祉専門高校における心の教育を一層定着させるために、身だしなみやマナー等の指導の進め方について工夫するとともに、多様な背景を持つ生徒を支援するために校内の教育相談体制を充実させる必要がある。 | ○福祉専門高校の特徴を生かした、心の教育および自主・自律を促す指導の充実 | <ol style="list-style-type: none"> ①人との関わりを大切に、思いやりの心を育てる人権教育、特別活動の充実 ②基本的生活習慣の確立に向けた生徒指導の実施 ③特別支援教育や教育相談の充実 | <ol style="list-style-type: none"> ①人権意識を高め、思いやりの心を育てる指導を日常的に行なったか。 ②アンケートで「身だしなみ・登校マナー等のルールが守れた」と回答する生徒の割合が90%を超えたか。 ③特別支援教育推進委員会や教育相談員会を定期的に開催し、課題を抱えた生徒の情報を教職員で共有し、SCやSSWおよび関係機関と連携して効果的に活用できたか。 | <p>生徒指導、教育相談、特別支援教育の充実を図った。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①授業や学校行事、特別活動等を通して人権意識を高める指導を行った。ボランティア活動を推奨した。 ②登校指導や授業中の巡回指導等により、授業規律を徹底した。生活調査では96.0%が身だしなみのルールを、99.2%が交通ルールを「守れた」「まあまあ守れた」と回答した。 ③課題を抱える生徒の支援のためSCやSSWを効果的に活用し、関係機関と連携して支援できた。 | A | <p>次年度も福祉専門高校の特徴を生かした授業や現場実習を積極的に進め、思いやりと福祉の心を持つ生徒を育てる教育を推進する。</p> <p>身だしなみ指導やマナー指導、定期的な登下校指導を継続し、礼儀正しく自律心を持った教養ある生徒を育てていく。</p> <p>校内教育相談体制の更なる充実のためSCやSSWによる支援を効果的に活用して、次年度も多様な背景を持つ生徒を支援したい。</p> |
| 3 | ○キャリア教育に向けた進路指導や支援方法の改善を継続している。生徒の進路希望実現を目指して両学科における進路指導を体系化し、資格取得や検定合格実績を充実させることが課題である。 | ○生徒の意識向上、資格取得・検定等の受験促進をさせる進路指導の充実 | <ol style="list-style-type: none"> ①各系列とコースにおける系統的な進路指導の充実 ②資格取得、各種検定試験の受験等を通じた進路意識向上 ③進路指導部・学年・教科・学科が連携した進路指導の実施 | <ol style="list-style-type: none"> ①アンケートで「進路意識が高まった」と回答した1年生の割合が、90%を超えたか。 ②アンケートで資格取得や検定受検に「取り組んだ」「まあまあ取り組んだ」と回答する生徒の割合が80%を超えたか。 ③就職内定率と進学合格率が共に前年度を維持できたか。 | <p>生徒の進路意識を高める取組を進めた。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①92.7%の生徒が進路意識を高めることが「できた」「まあまあできた」と回答し、目標の90%を超えた。 ②82.6%の生徒が資格取得や検定受検に「取り組んだ」「まあまあ取り組んだ」と回答し、目標の80%を超えた。 ③就職内定率90.0%(前年度97.6%)、進学決定率100%(前年度95.2%)であり、前年度並みの進路実績を維持した。(1月30日現在) ④就職支援アドバイザーを効果的に活用し、生徒の進路相談対応の充実を図った。 | A | <p>進路指導部を中心として年次・教科と連携し、両学科の生徒に対する系統的な進路指導システムの構築に取り組むとともに丁寧な指導を次年度も継続する。進路ガイダンス等の実施によりキャリア教育を充実させるとともにハンディ進路室の活用により進路指導や支援方法を改善したい。</p> <p>介護福祉士コースにおける国家試験全員合格はもちろん、資格取得、検定合格に対する生徒の意識を向上させられるよう進路指導に取り込みたい。</p> |
| 4 | ○本校の教育活動を広く県民に紹介できるよう組織的に広報活動を行っている。志願者確保につながるよう中学生や保護者および中学校教員へ向けて本校の特色、魅力発信の在り方を改善する必要がある。 | ○本校の特色・魅力を発信する体制の構築 | <ol style="list-style-type: none"> ①ボランティア活動等地域との連携を通じた本校の取組発信 ②学校説明会や受験フェア参加等の生徒募集活動の充実 ③進路指導・キャリア教育研究協議会を活用した、中学校への本校魅力の発信 | <ol style="list-style-type: none"> ①広報活動を充実させ、本校の取組をより多く発信できたか。 ②組織的に生徒募集活動を行い、中学生やその保護者の本校理解が進んだか。 ③中学校に対して、本校の魅力をPRできたか。 | <p>本校の特色を広く情報発信する工夫を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①彩の国教育週間における学校公開のほかHPの頻回更新、学校Instagramを開設など魅力発信に取り組んだ。 ②学校説明会や体験授業の計3回実施した。行田・羽生の小中学校で上級学校説明会や出前授業等を行い、本校の教育活動を紹介した。 ③生徒募集委員会を中核として全教職員の協働による組織的な生徒募集を推進し、中学生や保護者等に各学科の魅力を分かりやすく効果的に情報提供した。 | B | <p>本校の教育活動や魅力を県民に発信できるように中学校訪問、各種イベント、上級学校説明会、出前授業等の回数を確保し、組織的に生徒募集活動を行っている。少子化の影響などにより志願者確保は厳しい状況であるが、中学生や保護者、地域住民に対して本校の特色、魅力発信の在り方を改善して継続する。</p> |

| | |
|-------------------|---|
| 学校関係者からの意見・要望・評価等 | <p>・学力向上のためさまざまな取り組みをされていることがわかった。</p> <p>・ICTを活用した授業によって生徒の学力向上に効果があったことを評価したい。</p> <p>・総合学科ではあまり家庭学習課題が出されない。学ぶ意欲を向上させるために課題があってもよいと思う。一般常識を身に付けるためにもSPIなど基礎学力向上に関する課題については、時間をかけて取り組みたい。</p> <p>・思いやりの心を育てる指導により90%以上の生徒が「ルールを守れた」という自己評価ができることはすごいことだ。教師との信頼関係があるからだと思う。</p> <p>・身だしなみ指導の基準を教員間で統一してほしい。施設により異なると思うが、実習や就職先となる福祉施設ではどのような身だしなみ(髪形等)が受け入れられるか知りたい。</p> <p>・保育、看護、福祉など進みたい分野に関する情報は充実していると思う。ただし、中学生が高校入学前に将来の進路を決めるのは難しいと思う。</p> <p>・進路ガイダンスで美容や芸能等多くの分野を知ることができた。生徒としてそのような道に進む進路決定の参考となった。</p> <p>・インスタグラムの写真や更新頻度等、改善点が多い。もう少し工夫が必要だと思う。</p> <p>・中学生に情報が流れるように広報ツールとしてSNSの活用には更なる工夫が必要であると思う。</p> |
|-------------------|---|